



「命」と「心」を守る

避難訓練（不審者対応 5/10・火災想定 5/24）を実施しました。不審者は学校にいる時に現れるとは限りません。また、地震や火災等の災害もいつ起きるか分かりません。危険は様々な場所や時間帯にも潜んでいます。「命」と「心」を守るために、いざという時どのように対処するのかについてぜひご家族でも話し合ってくださいと思います。「自分の命は自分で守る」気持ちを育て、非常時の行動をきちんと確かめることの大切さは世界共通です。

いちにんまえ

命を守るための約束 【いかにのすしー人前】

いか … (知らない人に)ついて**い**かない
の …… (知らない車に)**の**らない
お …… **お**おきな声でさけぶ
す …… **す**ぐににげる
し …… (不審者に出会ったら家族や学校に)**し**らせる
一人 … **一**人で遊ばない
前 …… 出かける**前**におうちの人に「だれと」を伝える



地震・火災 避難の約束 【お・は・し・も】

お …… **お**さない
は …… **は**しらない
し …… **し**ゃべらない
も …… **も**どらない



訓練の最後に、本校卒業生
(クライストチャーチ警察) よりお話をいただきました。

「皆さんが真剣に避難する姿を見せていただきました。大切な命を守るために、訓練で学んだことを日々の生活に活かしてください」

「命」と「心」を守る大切な学びの時間でした。



別紙おたよりのとおり、中学部の代替講師を紹介します。

担任の先生が不在の間の代理を務めます、と申します。皆さんの学習の一助となれるよう、分かりやすい授業を行いたいと思います。短い間ではありますが、皆さんと勉強できることをとても楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。



♫: 校長室より（このコラムでは校長としてだけでなく「ひとりの親」としての雑感などを綴ります）

赤子には肌を離すな
幼児には手を離すな
子供には目を離すな
若者には心を離すな

秩父神社「親の心得」
園田稔氏作

これらの言葉に出会った時、子供と向き合う一教員として、そして3人の子育てをした親として、私の胸にささったことを思い出します。小中学生はちょうど「子供～若者」に当てはまりますよね。しっかりと手を握って育てる幼児期から、時には手を放して自立を支え、そっと見守ることも必要な小学生から中学生の時期。しかし手を離すことはあっても、「目を離すな」「心を離すな」のとおり、この時期の子供にとっては、親に見てもらうこと、感じてもらうこと、認めてもらうことが必要だ、ということなんですね。

学習発表会や卒業式のような特別な場を見ていただくことはもちろん大切ですが、私は普通の（日常の）学びの姿を見ていただくことも同じくらい大切だと思っています。一日の学校生活の中には子供のいろいろな姿があります。「なぜだろう？」と考える姿。「分かった!」と喜ぶ姿。「うーん」と悩む姿。集中する姿、集中できない姿。気付き、喜び、失敗、感動、共鳴、共感、……。派手なものもあれば地味なものもあります。仲良しの姿も、言い合いぶつかり合う姿もあります。その全てが大切な「ともに学ぶ姿」だからです。

6月7日の授業参観にはぜひ多くの方々に参加いただき、「補習校のみんながともに学ぶ姿」をご覧いただくとともに、お子さんの頑張りや成長をしっかりと「見て」「感じて」いただき、そして大いにほめ、認めてあげてほしいと思います。

参観授業に引き続き年次報告会も計画されています。学校と保護者の皆さんが繋がりを実感できる会にしようと工夫しています。時間も長くかかりませんのでぜひお残りください。また、この機会に校長への相談、このお便りへの感想 etc…などがありましたら、どうぞ遠慮なくお声がけください。いつでもお待ちしております。